

奈良市移動等円滑化促進 方針(マスタープラン)の 策定について

令和3年2月22日
第12回バリアフリー推進勉強会

奈良市 福祉政策課

奈良市バリアフリー関連計画の策定状況

平成26年
3月

バリアフリー基本構想の策定

「JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺地区」を重点整備地区として設定。

平成27年
7月

特定事業計画の策定

基本構想に基づき策定。

公共交通特定事業、道路特定事業など全438事業。

令和2年
3月

移動等円滑化促進方針(マスタープラン)の策定

「JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺地区」、「近鉄大和西大寺駅周辺地区」、「JR新駅周辺地区」を移動等円滑化促進地区に設定。SDGsの理念である「だれひとり取り残さない！」をスローガンに掲げ、多様なつながりが生み出す共生のまちを目指す。

基本理念と取り組み方針

基本理念

だれもがいきいきくらし、気軽に出かけられる古都奈良
～安全・安心で快適な生活と観光の共生を目指して～

取り組み方針

- ①ユニバーサルデザインの考え方に沿ったまちづくり
- ②奈良の魅力を高めるバリアフリーの推進
- ③みんなで取り組むバリアフリー社会の実現
- ④思いやりの精神をはぐくむバリアフリーの推進

取り組み方針①

①ユニバーサルデザインの考え方に沿ったまちづくり

- ・高齢者や障害者、妊産婦、子育て世代等が、分け隔てなく社会参加できる環境づくり
- ・国内外のだれもが訪れたいとなる「ユニバーサルデザイン」の考え方に沿った国際文化観光都市としてふさわしい環境づくり

②奈良の魅力を高めるバリアフリーの推進

- ・景観や歴史的価値とバリアフリーを両立させ、全ての人が気軽に来訪し、奈良の魅力に触れていただくことができる、古都奈良の魅力をさらに高めるまちづくりの推進

取り組み方針②

③みんなで取り組むバリアフリー社会の実現

- ・個人も事業者も当事者も、みんなで出来ることから取り組むことで、まち全体でのバリアフリー化を図る
- ・おもてなし・接遇・人による介助といったソフトの対応を含め、1つずつできることから改良し、バリアフリー社会の実現を目指す

④思いやりの精神をはぐくむこころのバリアフリーの推進

困ったときには自然に助け合える“こころのバリアフリー”を推進し、お互いを支え合い、だれもが尊重しあう、思いやりの精神をはぐくむ

ヒアリング調査

対象

障害者団体、高齢者団体、地区社協、民生児童委員等

現状における課題・問題

- ・地域でのサロン活動のための施設にエレベーターがなく、参加することができないなど、建物のハード設備が追いついていない
- ・神社仏閣における参道などのバリアフリー化
- ・災害時における避難所施設のトイレやバリアフリー化の未整備
- ・施設や道路の整備前に当事者の意見を聞き、事業に反映させるなど、当事者、事業者、行政の連携が重要
- ・ヘルプマークなど、認知不足による普及啓発の必要性

奈良市の目指す姿

- ・奈良の魅力である観光を活かしつつ、道が歩きやすく整備されたまち
- ・ユニバーサルデザインの考え方により、案内表示が見やすく整備され、だれもが安心して移動できるまち
- ・高齢者や障害者、引きこもりの方などがつながり、ネットワークで見守り合えるまち
- ・子どもから高齢者まで思いやりの心の教育を推進するまち

奈良市の目指す姿

多様なつながりが生み出す共生のまち

➤ さまざまな状況・立場の人々が**共**に生きるまち

高齢者や障害者、妊産婦、子育て世代、住民や観光客がみんな出かけられるまちづくり

➤ 歴史と未来が**共**に生きるまち

古都奈良の文化財とノーマライゼーションが融合するまちづくり

➤ だれもが主体、みんなで**共**に創っていくまち

地域、事業者、行政がともに協働するユニバーサルデザインのまちづくり

➤ 相互に支え合う**共**生の心と個性尊重のまち

思いやりのこころの学びと多様性が尊重されたまちづくり

目指す姿の実現に向けた3つの指針①

①ハードとソフトの一体的推進

地域、事業者、行政が一体で「ハード」と「ソフト」施策が両輪となり、まちづくりを推進

●災害に強いまちの形成

- ・小中学校等の教育施設とその周辺環境の整備や、指定された避難所の改修や避難路の整備促進
- ・防災教育や防災研修等による個人の災害対応力のレベルアップ

●「通いの場」づくり

- ・地域サロンや認知症カフェ等の「通いの場」づくりを通じ、地域における「つながり」、「見守り」、「支え合い」の推進と支援体制の強化

●アダプトプログラムの推進

- ・市民による道路や河川等の公共スペースの美化活動を行政が支援し、人々の支え合いと活気のある社会に向けた地域相互の連携

目指す姿の実現に向けた3つの指針②

②持続可能なまちづくり

だれにとっても利用しやすく、暮らしやすい社会となるよう、生活環境を整えていくことによる、社会全体の活力のさらなる向上を推進

●ユニバーサルデザインの7つの原則によるまちづくり

7つの原則(1.公平性、2.柔軟性、3.簡単さ、4.明確さ、5.安全性、6.持続性、7.空間性)に基づき、「持続可能なまちづくり」を推進

●ユニバーサルツーリズムの推進

- ・景観や歴史的価値を残したまま、すべての人が奈良の魅力に触れて楽しむことができる「ユニバーサルツーリズム」の推進
- ・多様な利用者ニーズに合わせたトイレ設置の推進
- ・将来世代にわたってユニバーサルデザインの考えを継承し続けることのできるまちづくりの推進

目指す姿の実現に向けた3つの指針③

③こころのバリアフリーを実現するひとづくり

個人がその心身の特性や考え方にとらわれることなく尊重される、多様性のある共生社会を目指した意識の醸成や教育の推進

●配慮の必要性を示すマークの普及啓発

- ・さまざまなマークへの正しい理解と必要な援助に向けた普及啓発
(例)ヘルプマーク、マタニティマーク

●こころのバリアフリー教育

- ・小中学校等での学習を通じた人権と共生のまちづくりに向けた行動力、違いを個性として捉えられる豊かな心の育成

●認知症施策

- ・「認知症サポーター養成講座」や「認知症カフェ」の開催
- ・「認知症地域見守り模擬訓練」をはじめとした顔の見えるつながりによる地域づくりの推進

移動等円滑化促進地区の選定②

- ① JR奈良駅、近鉄奈良駅周辺地区
- ② 大和西大寺駅周辺地区
- ③ JR新駅(八条・大安寺)周辺地区

- ① JR奈良駅、近鉄奈良駅は、**既存のバリアフリー基本構想における重点整備地区と重なる形**で移動等円滑化促進地区を設定。
- ② 大和西大寺駅は、**鉄道の乗り換え機能**を有しており、駅南北自由通路や駅周辺が整備中であること、平城宮跡の最寄り駅であること等を踏まえ、移動等円滑化促進地区として位置付け。
- ③ 今後新たに整備が予定されているJR新駅およびその周辺は、(仮称)奈良ICと隣接し、新たな地域拠点の形成を目指し、新規に整備される駅であることから、**バリアフリー化のモデル地区となりえる**こと等を踏まえ、移動等円滑化促進地区として位置付け。

移動等円滑化促進地区Ⅰ -JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺地区①-

地区の特徴

- ・JR奈良駅は**約3万6千人／日**、近鉄奈良駅は**約6万7千人／日**の乗降客数があり、多くの方が利用する鉄道駅である
- ・2駅間の距離が約0.8kmと近接している
- ・周辺地域には、**多くの文化施設や商業施設・商店街が立地**している
- ・東大寺、興福寺等の世界遺産や奈良公園などがあり、**奈良の代表的な観光地**の一つと認識されている

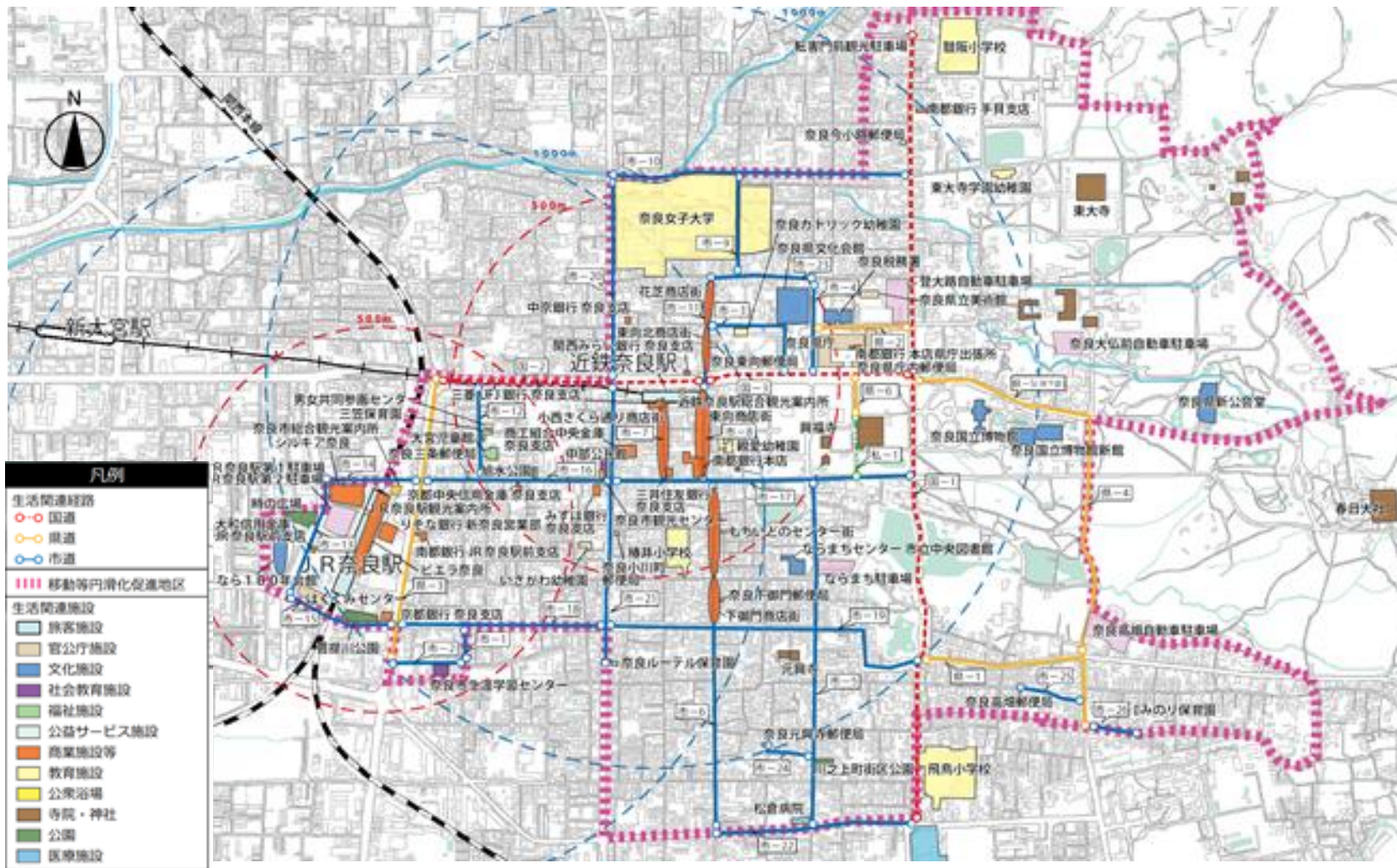
地区の課題

- ・狭小な幅員、段差、マウントアップ、障害物等、ハード面での課題多い
- ・障害者をサポートするための制度づくり、理解の促進を求める声が多い

移動等円滑化促進地区Ⅰ -JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺地区②-

地区の将来像

古都奈良の表玄関として、安全・安心で快適な生活と観光の共生を先導する地域づくり



移動等円滑化促進地区Ⅱ -大和西大寺駅周辺地区①-

地区の特徴

- ・大和西大寺駅は乗降者数が**約4万7千人／日**と、市内でも3番目に利用者数が多い鉄道駅である
- ・近鉄奈良線や近鉄京都線などの乗り換え駅となっており、**乗降客数以上の方が利用**している
- ・駅の**南北自由通路の整備**や**駅周辺の市街地整備**が進められている
- ・地区内には西大寺を含み、隣接する平城宮跡は国営公園として整備が進められており、大和西大寺駅はその**玄関口としての役割**が期待される

地区の課題

- ・交通量が多く、歩道における狭小幅員、段差、マウントアップ、障害物等、ハード面での課題が多い

移動等円滑化促進地区Ⅱ -大和西大寺駅周辺地区②-

【参考写真】大和西大寺駅南北自由通路



▲駅南側

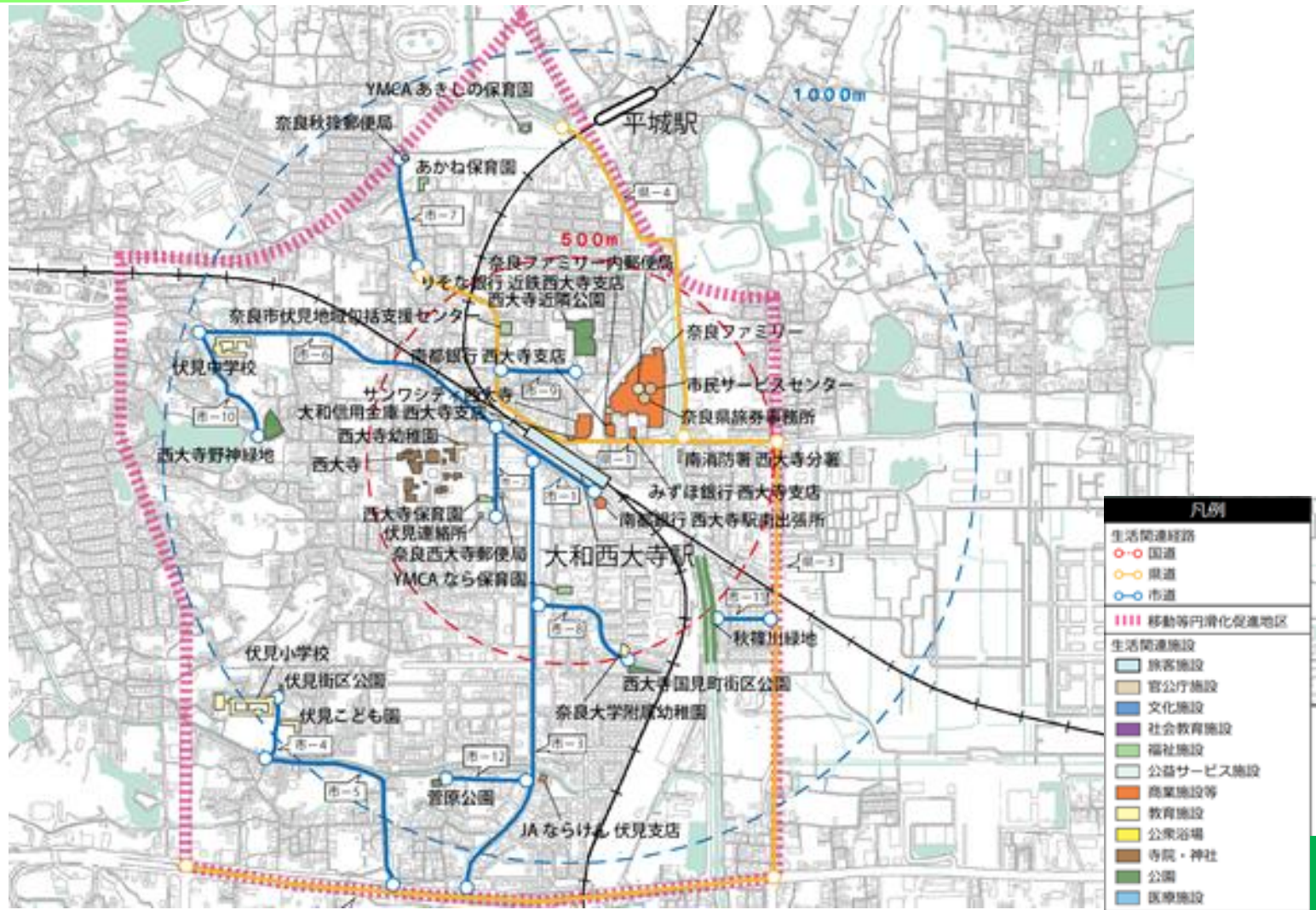
自由通路内▶



移動等円滑化促進地区Ⅱ -大和西大寺駅周辺地区③-

地区の将来像

駅及びその周辺の再整備を契機とした南北の交通の結節点と平城宮跡の玄関口としての地域づくり



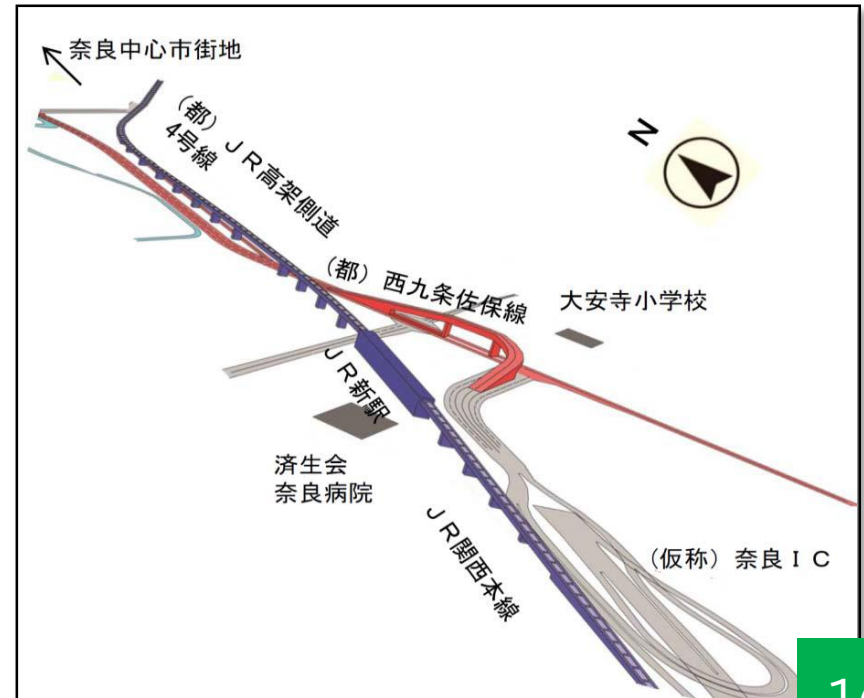
移動等円滑化促進地区Ⅲ -JR新駅周辺地区①-

地区の特徴

- ・JR関西本線の高架化整備が進められ、**新駅の設置**が予定されている
- ・京奈和自動車道と奈良ICの整備や市内中心部とのアクセス道路となる**都市計画道路の整備**も進められている
- ・現時点では、新駅周辺に生活施設はあまり立地しておらず、幹線道路沿道に多く見られる

地区の課題

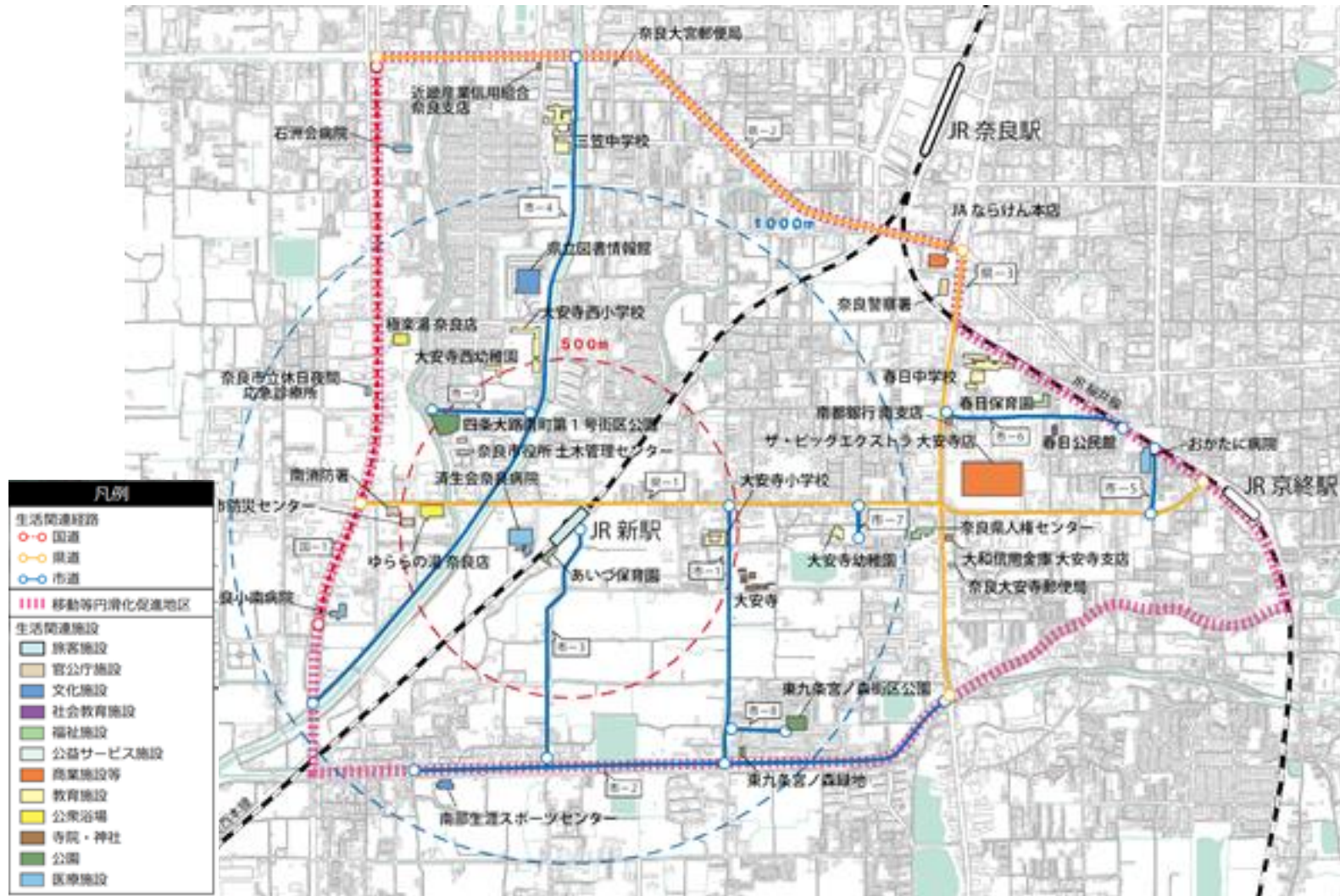
今後、駅整備と合わせて新たな拠点として周辺の整備が進むことから、**市のモデルとなるようなバリアフリー整備**が求められる



移動等円滑化促進地区Ⅲ -JR新駅周辺地区②-

地区の将来像

新駅整備を契機とした奈良市のバリアフリーモデル となる地域づくり



奈良市におけるマスタープラン作成時ポイント

■共生社会実現に向けた関連施策との連携

「共生社会」の実現に向け、既に策定済みのバリアフリー基本構想の内容に加え、福祉分野の視点をさらに加味し、地域福祉計画をはじめとした関連施策との連携により、これまでの理念や取り組み、内容を引き継ぎ、整合性をとったうえで、より発展的なものとなるよう考え策定した。

■作成時に時間を要した点、苦労したポイント

- ・市の目指す姿や3つの指針の設定
- ・生活関連施設やそれに準じる施設の設定
- ・1年間の策定期間のなかでのスケジュール管理
- ・内容や用語の分かりやすい説明や見せ方の工夫

■予算措置

地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用

